2017年度
年次報告書

和歌山大学
国際観光学研究センター

CENTER
FOR
TOURISM
RESEARCH

Contents

1 国際観光学研究センターについて …… 3
1.1. ミッション …… 3
1.2. 機能と国際的側面 …… 3
1.3. 運営体制 …… 3
1.3.1. 組織図 …… 3
1.3.2. 意思決定機関 …… 4
1.3.3. CTR研究員 …… 5
1.3.4. CTR研究ユニット …… 10
1.4. 活動内容 …… 13
1.4.1. 研究活動 …… 13
1.4.2. 研究・教育サポート …… 14
1.4.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー …… 15
1.4.4. その他 …… 15
2 活動報告 …… 16
2.1. 研究活動 …… 16
2.1.1. 研究員別業績一覧 …… 16
2.1.2. 登録研究プロジェクト一覧 …… 23
2.1.3. 英文論文集出版 …… 25
2.1.4. 国際研究協力（リサーチコーディネート） …… 26
2.1.5. 研究集会開催 …… 26
2.2. 研究・教育サポート …… 27
2.2.1. 研究相談会開催 …… 27
2.2.2. 学会等イベント開催支援 …… 27
2.2.3. 観光学部授業科目の開講支援 …… 28
2.2.4. 外部機関連携活動の支援・促進 …… 29
2.2.5. UNWTO. TedQual認証取得支援 …… 32
2.2.6. 観光学部FD・SD活動支援 …… 32
2.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー …… 34
2.3.1. 学会スポンサー参加 …… 34
2.3.2. ニュースレター発行 …… 35
2.3.3. 外部機関との連携促進 …… 35
2.3.4. 学会、イベント参加等 …… 37
2.3.5. セミナー等の企画・運営 …… 42

1 国際観光学研究センターについて

1.1. ミッション

観光学研究の高度化を通じて、健全で持続可能な社会の発展に寄与する。

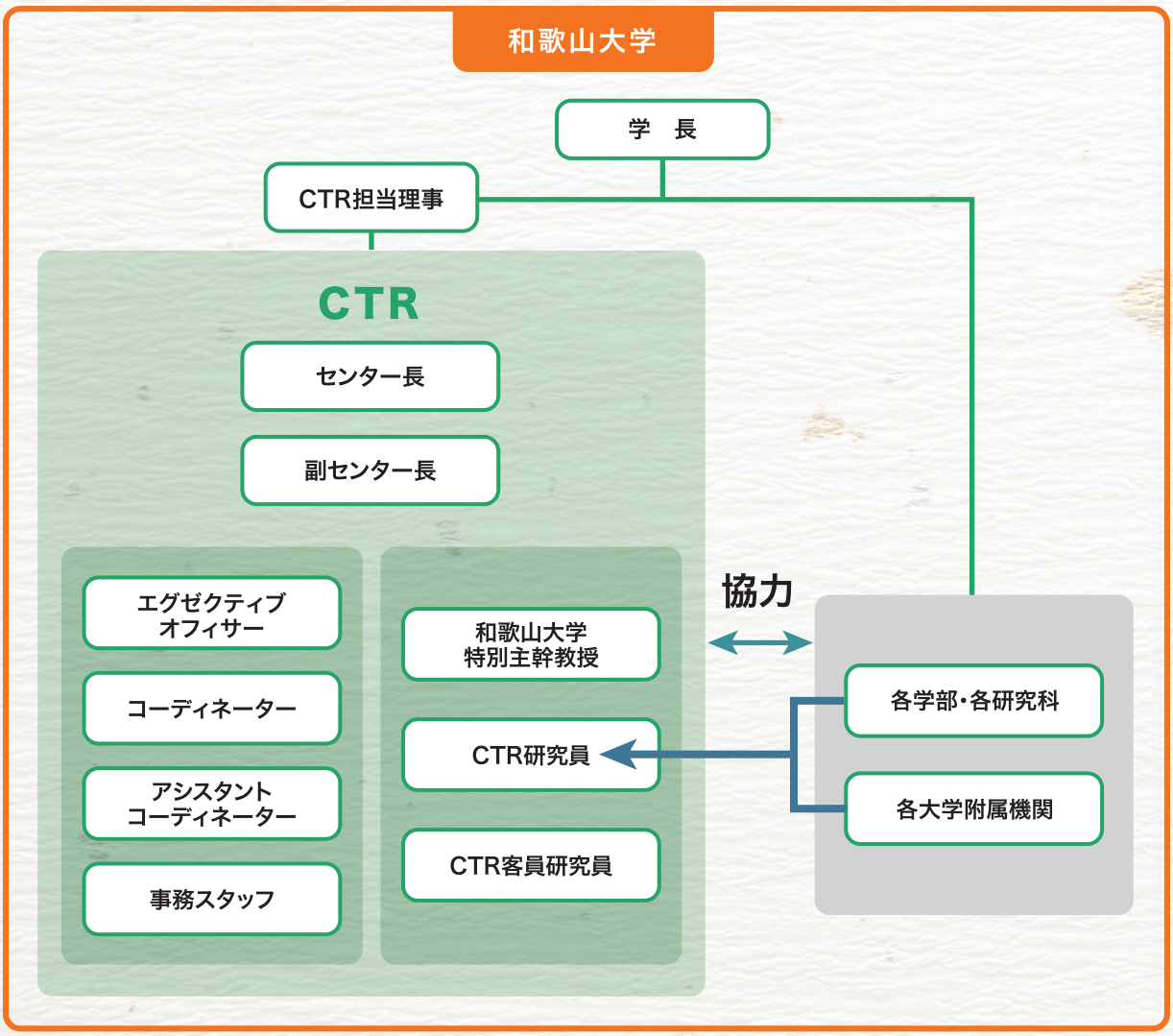
1.2. 機能と国際的側面

●日本、アジア太平洋地域における観光学研究の牽引
●国内外の主要な観光学研究機関との連携強化

1.3. 運営体制

1.3.1. 組織図

国際観光学研究センター（CTR）機構　　2018年3月現在



運営管理組織

管理スタッフ

センター長
藤田 武弘

副センター長
Graham Miller

副センター長
加藤 久美

副センター長
Richard Sharpley

運営実務スタッフ

コーディネーター

エグゼクティブオフィサー
中元 一恵

コーディネーター
藤井 琢哉

アシスタントコーディネーター
村野 美里

事務スタッフ

事務員
中瀬 えりか

特任事務職員
小林 麻希

事務補佐員
牛島　愛

1.3.2. 意思決定機関

運営協議会	毎年の業績報告を回覧し意見聴取。重要事項について適宜意見聴取。
常任運営委員会	日常的な意思決定及び、教員評価・機関評価、テニュアトラック管理・評価。
研究委員会	研究活動の戦略的企画・促進。研究活動全般に関する進捗管理。
ユニット会議	研究組織の基本フレーム。必要に応じて会議を開催し独自活動を展開。
広報戦略委員会	観光教育研究セミナーの企画・運営。
実務担当者会議	実務担当者の業務確認・業務分担等の認識共有。

1.3.3. CTR研究員

CTR研究員（計49名）	和歌山大学特別主幹教授	6名
	CTR専任研究員	3名
	CTR特任研究員	1名
	CTR併任研究員	観光学部26名、学内他学部等13名
CTR客員研究員（計37名）	CTR特別主幹研究員	1名
	CTR客員特別研究員	33名
	CTR客員一般研究員	3名

研究員一覧

1.3.3.1. CTR研究員

＜和歌山大学特別主幹教授＞

（2018年3月現在）

HINCH, Thomas	和歌山大学 特別主幹教授、Professor, University of Alberta
LEASK, Anna	和歌山大学 特別主幹教授、Professor, Edinburgh Napier University
MILLER, Graham	国際観光学研究センター 副センター長、和歌山大学 特別主幹教授、Professor, University of Surrey
RITCHIE, Brent W.	和歌山大学 特別主幹教授、Professor, The University of Queensland
SHARPLEY, Richard	国際観光学研究センター 副センター長、和歌山大学 特別主幹教授、Professor, University of Central Lancashire
WALKER, Gordon J.	和歌山大学 特別主幹教授、Professor, University of Alberta

＜CTR専任研究員＞

CHAKRABORTY, Abhik	国際観光学研究センター 講師
DOERING, Adam	国際観光学研究センター 准教授
KHAOKHRUEAMUANG, Amnaj	国際観光学研究センター 講師

＜CTR特任研究員＞

山田 良治	和歌山大学 名誉教授、国際観光学研究センター 特任教授、学長補佐

<CTR併任研究員>

秋山 演亮	協働教育センター（災害科学教育研究センター） 教授
足立 基浩	経済学部 教授
伊藤 央二	観光学部 講師
植田 淳子	食農総合研究所 特任助教
王 妙発	経済学部 教授
大井 達雄	観光学部 教授
大浦 由美	観光学部 教授
大西 敏夫	経済学部 教授
大橋 直義	教育学部 准教授
尾久土 正己	観光学部 教授
小野 健吉	観光学部 教授
海津 一朗	教育学部 教授
加藤 久美	国際観光学研究センター 副センター長、観光学部教授
木川 剛志	観光学部 准教授
岸上 光克	地域活性化総合センター 食農総合研究所 准教授
北村 元成	観光学部 教授
佐々木 壮太郎	観光学部 教授
佐野 楓	観光学部 准教授
澤田 知樹	観光学部 准教授
竹田 明弘	観光学部 准教授
竹鼻 圭子	観光学部 教授
竹林 明	観光学部 教授
竹林 浩志	観光学部 准教授
辻 和良	食農総合研究所 特任教授
辻本 勝久	経済学部 教授

出口 竜也	観光学部 教授
永井 隼人	観光学部 講師
中串 孝志	観光学部 准教授
永瀬 節治	観光学部 准教授
東 悦子	紀州経済史文化史研究所 所長、観光学部 教授
廣岡 裕一	観光学部 教授
彦次 佳	教育学部 准教授
藤田 武弘	国際観光学研究センター センター長、観光学部 教授
堀田 祐三子	観光学部 教授
八島 雄士	観光学部 教授
吉田 道代	観光学部 教授
吉野 孝	システム工学部 教授
吉村 旭輝	紀州経済史文化史研究所 特任准教授
米山 龍介	観光学部 教授

1.3.3.2. CTR客員研究員

<特別主幹研究員>

敬称略(2017年10月現在)

特別主幹研究員は、観光学の発展・確立に向けた包括性・普遍性の高い研究課題を有し、その裏付けとなる優れた研究実績を有するとともに、CTRを主たる活動拠点とする研究員をいう。

大橋 昭一	和歌山大学 名誉教授

<CTR客員特別研究員>

CTR客員特別研究員は、国内外の大学教員または一定の研究経験を有するものとし、CTR研究員との共同研究を行うもの、CTRでの研究プロジェクトへ参加するもの、もしくはCTRを拠点として観光学研究を行う必要があるものとする。

CHEER, Joseph	Associate Director, Australian & International Tourism Research Unit (AITRU), National Centre for Australian Studies (NCAS) | Lecturer, Graduate Tourism Program, Faculty of Arts, Monash University (Australia)
DRUMMOUD, Damon	立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 准教授

LOPEZ, Lucrezia	Associate Professor, Department of Geography & History, University of Santiago de Compostela (Spain)
LOVELOCK, Brent	Associate Professor, Department of Tourism | Co-Director, Centre for Recreation Research, University of Otago (New Zealand)
THOMPSON, Anna	Senior Lecturer, Department of Tourism / Co-Director, Centre for Recreation Research University of Otago (New Zealand)
WEEKS, Donna	武蔵野大学 国際政治学 教授
荒井 経	東京藝術大学大学院美術研究科 准教授
今井 ひろこ	コムサポートオフィス 代表
大貫 美鈴	スペースアクセス株式会社 代表取締役 宇宙ビジネスコンサルタント、スペースフロンティアファンデーション アジアリエゾン代表
岡田 美奈子	株式会社JTB総合研究所 コンサルティング事業部 営業企画部 研究員
小形 正嗣	関西テレビ放送株式会社
小野 綾子	女子美術大学 助手（助教）
柏木 翔	慶應義塾大学院 政策・メディア研究科 後期博士課程、東海大学福岡短期大学 国際文化学科 特任講師、九州産業大学商学部観光産業科 非常勤講師
神田 孝治	立命館大学文学部 教授
金 宰煜	広島大学大学院 社会科学研究科マネジメント専攻 講師
権 純珍	倉敷芸術科学大学 危機管理学部 教授
斎藤 望	株式会社パデコ
笹森 琴絵	JWDC（Japan Whale and Dolphin Watching Council）代表、さかまた組代表、ネーチャーガイド、写真家、酪農学園大学 客員研究員
佐藤 芳文	国会図書館
杉山 幹夫	株式会社スマッポ 代表取締役、教育と産業研究所 所長、Local wiki ジャパン 編集長、Code for Sapporo 顧問

蘇 哲仁	Full Professor, Fu Jen Catholic University, Department of Restaurant, Hotel and Institutional Management (Taiwan)
田中 光敏	大阪芸術大学映像学科教授、映画監督、CMディレクター、クリエイターズユニオン代表取締役
谷 俵太	iki design firm 代表
西尾 建	Senior Research Fellow, Institute for Business Research, Waikato University（New Zealand）
野津 直樹	株式会社ナビタイムジャパン 交通コンサルティング事業部 事業責任者
堀込 孝二	特定非営利活動法人スポーツファンデーション 代表理事
牧野 恵美	東京理科大学経営学部 准教授
宮口 直人	株式会社ビズユナイテッド 代表取締役
山口 志郎	流通科学大学 人間社会学部 准教授、和歌山大学大学院観光学研究科 博士後期課程
山崎 直子	元JAXA宇宙飛行士、宇宙政策委員会委員（内閣府）
吉住 千亜紀	飯田市美術博物館
吉田 潔	株式会社地域マーケティング研究所 代表取締役、西日本工業大学、福岡大学非常勤講師
李 只香	九州共立大学経済学部 教授

＜CTR客員一般研究員＞

CTR客員一般研究員は、原則として、国内外の博士後期課程学生もしくは博士後期課程を修了後引き続き研究を行うものとし、CTR研究員との共同研究を行うもの、CTRでの研究プロジェクトへ参加するもの、もしくはCTRを拠点として観光学研究を行う必要があるものとする。博士後期課程学生については、在籍大学の指導教員の許可を受ける必要がある。なお、当該研究により単位を付与することはない。

明山 文代	和歌山大学観光学研究科修士課程修了、元中学校教員
河野 慎太朗	Ph.D. Candidate, Faculty of Physical Education and Recreation, University of Alberta (Canada)
竹田 茉耶	一般財団法人和歌山社会経済研究所

1.3.4. CTR研究ユニット

CTRでは、10の研究ユニットを組織し、共同研究や研究会等の活動を推進できる環境を整備している。各ユニットは、研究プロジェクト及び当該専門領域を研究課題とする個人から構成されるオープンな研究集合体である。全体の枠組みとしては以下のように区分している。

●Key Research Unit：観光学研究の主要な柱となるユニット

●Strategic Research Unit：CTRが課題と考える領域のユニット

●Cooperative Research Unit：外部機関との密な連携を活動の中心に据えるユニット

CTR研究員はいずれかのユニットに属し、研究プロジェクトは複数のユニットにまたがることもある。

※客員研究員はユニットへの所属は必須ではない。

Key Research Units

Tourism & Sustainability

概　要	サステナビリティは、その影響力及び要請が高まっている観光において優先的課題と見なされている。本ユニットでは、観光におけるサステナビリティの環境、社会文化、経済、マネジメントの側面をクリティカルに分析し、学術的及び社会的貢献をめざす。
リーダー	Graham Miller
サブリーダー	加藤 久美
メンバー	Abhik Chakraborty、Adam Doering、Amnaj Khaokhrueamuang、Lucrezia Lopez、足立 基浩、大浦 由美、斎藤 望、笹森 琴絵、永瀬 節治、藤田 武弘

Tourism & Development

概　要	政策、プランニング、ガバナンス、マネジメントなど観光開発に関する広範にわたる諸課題について、都市と農村、過去と現在及び多様な地理的範囲や社会、文化、経済的発展の様々な局面において調査・研究を行う。
リーダー	Richard Sharpley
サブリーダー	堀田 祐三子
メンバー	Amnaj Khaokhrueamuang、大浦 由美、澤田 知樹、竹田 茉耶

Tourism & Culture, Heritage

概　要	文化遺産のマネジメント、保全及び開発に関する広い課題について、クリエイティブ・ツーリズムなどの新しいアプローチも取り入れつつ研究する。歴史的地域、建造環境や都市、農村や農業景観、自然環境、特徴ある文化が存続する地域及び無形遺産の保全や再生なども課題とする。
リーダー	Anna Leask
サブリーダー	小野 健吉
メンバー	Abhik Chakraborty、王 妙発、大橋 直義、海津 一朗、神田 孝治、澤田 知樹、竹鼻 圭子、永瀬 節治、東 悦子、吉田 道代、吉村 旭輝

Tourism Management

概　要	観光目的地や観光ホスピタリティ産業を支援する新たな知識や知見の創造及び普及は、より効果的効率的な意思決定を実現する。知識及び知見は、競争優位を創出するための政策立案及び計画や戦略の策定に資するものである。本ユニットの研究課題としては、リスク・マネジメントや戦略的プランニング及びマネジメント、政策、マーケティング、経済、イノベーション、成果測定手法等が想定される。
リーダー	Brent W. Ritchie
サブリーダー	佐野 楓、永井 隼人
メンバー	大井 達雄、柏木 翔、佐々木 壮太郎、竹田 明弘、竹林 浩志、出口 竜也、廣岡 裕一、八島 雄士、吉野 孝

Strategic Research Units

Tourism & Sports

概　要	ツーリズムに関連した余暇・レジャー及びスポーツの理論構築やそれらの諸活動や行動に関する実用的意義を研究対象とする。特に、今日におけるスポーツや余暇・レジャーの社会、文化、地域に関する意義について研究する。間もなく開催予定のラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスターズゲームズ2021といった大型イベントに関連するスポーツツーリズムやイベント・マネジメントについて調査・研究していく。
リーダー	Thomas Hinch
サブリーダー	Gordon J. Walker、伊藤 央二
メンバー	Adam Doering、河野 慎太朗、彦次 佳、山口 志郎

Tourism & Digital Media, Information

概　要	IT、デジタルメディア及び新領域のビッグデータの利活用を優先的課題とし、観光統計によるトレンド、インパクト、動向分析やその応用に活用する。観光学部ドームシアター設備を活かした特徴あるコンテンツ開発も含む。
リーダー	尾久土 正己
サブリーダー	吉野 孝
メンバー	大井 達雄、小形 正嗣、木川 剛志、北村 元成、田中 光敏、中串 孝志、野津 直樹、吉住 千亜紀

Tourism & Space, Mobility

概　要	観光の基盤的理念としての空間、モビリティ研究に取組む。「宇宙空間と観光」などの学際的分野にも取組む。
リーダー	中串 孝志
サブリーダー	尾久土 正己
メンバー	秋山 演亮、大貫 美鈴、小野 綾子、辻本 勝久、永瀬 節治、山崎 直子

Cooperative Research Units

Tourism Education

概　要	教育の理念及び方法論、内容、カリキュラムデザインなど今日求められる高等観光教育の充実を図るべく、学際的視点からの研究促進を目的に、学部専任教員それぞれが多様な研究テーマでの競争的資金の獲得を実現している。とりわけ科学研究費補助金については、平成28年度に公開された研究分野別取得実績（観光学）において、全国第一位の実績を誇っている。
リーダー	藤田 武弘
サブリーダー	八島 雄士
メンバー	足立 基浩、伊藤 央二、王 妙発、大井 達雄、大浦 由美、大橋 昭一、尾久土 正己、小野 健吉、海津 一朗、加藤 久美、木川 剛志、岸上 光克、北村 元成、佐々木 壮太郎、佐野 楓、澤田 知樹、竹田 明弘、竹鼻 圭子、竹林 明、竹林 浩志、辻本 勝久、出口 竜也、永井 隼人、中串 孝志、永瀬 節治、東 悦子、廣岡 裕一、堀田 祐三子、山田 良治、吉田 道代、吉村 旭輝、米山 龍介

Tourism & Food, Agriculture

概　要	持続可能な開発や保全などの先進的な視点から、地域の食と経済、食の安全、農業景観と経済などを探求する。また、本学「食農総合研究所」との連携により、和歌山地域をはじめ、日本全国の課題を対象として取組む。
リーダー	大西 敏夫
サブリーダー	岸上 光克
メンバー	Amnaj Khaokhrueamuang、植田 淳子、大浦 由美、竹鼻 圭子、辻 和良、藤田 武弘

Tourism & DMO

概　要	観光目的地のマネジメント、サービス・ホスピタリティの向上及び経済的発展を推進する日本版DMOの普及促進について、主に産官学連携を重視して取組む。多様な形態でのインバウンド観光の急増に伴う各地域に対する需要の増大は、人材育成の必要性と併せ、喫緊の課題である。
リーダー	八島 雄士
サブリーダー	竹林 明
メンバー	Adam Doering、Damon Drummond、木川 剛志、金 宰煜、権 純珍、佐々木 壮太郎、谷 俵太、出口 竜也、永井 隼人、西尾 建、廣岡 裕一、藤田 武弘、堀込 孝二、牧野 恵美、宮口 直人、李 只香

1.4. 活動内容

1.4.1. 研究活動

- **研究ユニットの活動：10ユニット**
- **登録研究プロジェクト：32件**
  - ◆ 科学研究費助成事業採択研究課題：18件
  - ◆ CTR助成研究プロジェクト：14件
- **英文論文集出版**
  - ◆ 学術誌「Tourism Planning & Development」日本特集号出版
- **国際研究協力（リサーチコーディネート）**
- **外部委員受任**
  - ◆ 大阪・関西スポーツツーリズム&MICE推進協議会委員
- **研究集会開催**

1.4.2. 研究・教育サポート

●研究プロジェクト支援

◆ CTR研究員向け事業企画助成：12件

◆ CTR専任研究員向けスタートアップ支援：2件

●研究資料整備

◆ CTR所有図書の貸出・管理

◆ 主要図書（電子ジャーナル含む）購入・新聞購読

●研究相談会開催

●研究関連情報提供

●学会等イベント開催支援

◆「The 6th Asian Forum for the Next Generation of the Social Science of Sport」共催

◆ パネル展示「サステナブル・ツーリズムの学び
～PATA和歌山大学学生支部の研修旅行より～」後援

●観光学部授業科目の開講支援

◆ 特別主幹教授・CTR専任スタッフによる授業科目開講支援：18科目

●外部機関連携活動の支援・促進

◆ UNWTO本部インターンシップ参加支援

◆ UNWTO学生ボランティアグループの活動（翻訳協力、コンテンツ開発、成果発表）支援

◆「ASEAN+3ツーリズム・ユース・サミット」及び「ASEAN+3ツーリズム・ユース・サミット in JAPAN」
参加支援、「ASEAN+3・ツーリズム・ユース・サミット・イン・ジャパン・ワークショップ」共催

◆ 観光庁「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」実施協力

●海外研究教育機関との連携拡充

◆ ウズベキスタン共和国ブハラ国立大学との大学間交流協定締結

●UNWTO. TedQual（観光学教育研究プログラム国際認証）認証取得協力

●観光学部FD（Faculty Development）・SD（Staff Development）活動支援

◆ 英語開講授業研修プログラム事前調査

◆ 国際研修

◆ セミナー・ワークショップ開催

●学内国際化支援

◆ 他大学への国際化現況聞き取り・視察

◆ 国際教育会議（NAFSA2017）出席

◆ 学内英語化の推進

1.4.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー

●国際学会スポンサー参加

◆「APTA Annual Conference 2017」

◆「Critical Tourism Studies - Asia Pacific Inaugural Biennial Conference」

●国際学会開催誘致準備

●ニュースレター発行

◆「Wakayama University Tourism Update」(年2回、観光学部共同発行)

●雑誌寄稿

◆21世紀わかやま Vol.86「和歌山大学における観光学教育研究の高度化と国際観光学研究センターの役割」(和歌山社会経済研究所)

●外部機関との連携促進

◆国際連合「開発のための持続可能な観光国際年(International Year of Sustainable Tourism for Development)」推進協力

◆UNWTO主催会議・地域大会への参加等

◆UNWTO活用検討会参加

◆UNWTO. Themis Foundationとの共同プログラム企画

◆World Travel & Tourism Council (WTTC)「Tourism for Tomorrow Awards」実施協力

●学会・イベント参加(研究発表、招待講演、モデレーター、オブザーバー等)

●学会・イベント開催協力

◆京都大学宇宙総合学研究ユニットシンポジウム
「人類は宇宙人になれるか? ―宇宙教育を通じた挑戦―」後援

◆「WORLD TOURISM FORUM LUCERNE 」プログラム実施協力

◆「京都観光データウォーク2018」参加学生支援

●国内外観光教育研究機関等とのネットワーキング

◆来訪者対応(国内外大学・企業・公機関)

◆関係各機関訪問・視察

◆情報・意見交換、共同プロジェクト企画

●セミナー等の企画運営

◆観光教育研究セミナー:2回

◆公開セミナー、シンポジウム、ワークショップ:9回

◆学内セミナー、ワークショップ:6回

1.4.4. その他

●UNWTO. TedQualコンサルティング

2 活動報告

2.1. 研究活動

2.1.1. 研究員別業績一覧

研究員ごとの研究出版業績（論文と著書に限る）は以下の通り。

Chakraborty, Abhik

（論文）

■**Chakraborty, A.** (2018). Challenges for environmental sustainability in a mountain destination: insights from the Shiroumadake District of North Japan Alps. *GeoJournal*. doi: 10.1007/s10708-018-9868-1 *Indexed in Scopus

■**Chakraborty, A.,** (2018). Japan's Mountain Tourism at a Crossroads: Insights from the North Japan Alps. *Tourism Planning & Development, 15*(1), 82-88. doi: 10.1080/21568316.2017.1324810 *Indexed in Scopus

（著書）

■**Chakraborty, A.,** Mokudai, K, Cooper, M. Watanabe, M., & Chakraborty, S. (Eds). (2018). *Natural Heritage of Japan: Geological, Geomorphological, and Ecological Aspects.* Cham: Springer. doi: 10.1007/978-3-319-61896-8

■Cooper M**, Chakraborty, A.,** & Chakraborty, S. (Eds). (2018). *Rivers and Society: Landscapes, Governance, and Livelihoods.* London: Routledge.

Doering, Adam

（論文）

■**Doering, A.,** & Zhang, J. (2018). Critical Tourism Studies and The World:On sense, praxis and the politics of creation. *Tourism Analysis*, *23*(2), 227-237. *Indexed in Scopus

■Nagai, H., **Doering, A.,** & Yashima, Y. (2018). The emergence of the DMO concept in Japan: Regional Spotlight. *Journal of Destination Marketing and Management*, *9*, 377-380. *Indexed in Scopus

■八島雄士, 永井隼人, **ドーリング・アダム.** (2017). 日本版DMO候補法人と地域コミュニティーとの関わり: 収入構造の視点から. *日本国際観光学会論文集.* [予定]

■**Doering, A.** (2017). Mobilizing stoke: A genealogy of surf tourism development in Miyazaki, Japan. *Tourism Planning & Development, 15*(1), 68-81. *Indexed in Scopus.

（著書）

■**Doering, A.** (2018). From he'e nalu to Olympic sport: A century of surfing evolution (case study). In J. Higham, & T. Hinch, *Sport Tourism Development (3rd edition)*. Clevedon, UK : Channel View Publications.

■Hinch, T., Higham, J., & **Doering, A**. (2018). Sport, tourism and identity: Japan, rugby union and the transcultural maul. In C. Acton & D. Hassan (Eds.), *Sport and Contested Identity* (191-206). London: Routledge.

Khaokhrueamuang, Amnaj

（論文）

■**Khaokhrueamuang, A.** (2017). Agricultural heritage systems of orchard based on the concept of satoyama and sufficiency economy : Green tourism perspectives for Japan and Thailand. *Journal of Thai Interdisciplinary Research, 12*(3), 38-49.

（著書）

■**カウクルアムアン・アムナー**（矢ケ崎典隆 訳）. (2018). タイのデルタにおける自然保護とエコツーリズム. *シリーズ地誌トピックス2 ローカリゼーション 地域へのこだわり*（矢ケ崎典隆・菊地俊夫・丸山浩明 編), pp. 110-122, 朝倉書店.

足立 基浩

（論文）

■Ueno, M., **Adachi, M.**, & Mitarai, J. (2017). Self-assessed Positive Impacts of Area Management Organizations in Japan. *International Real Estate Review, 20*(2), 189-206.

伊藤 央二

（論文）

■Kono, S., Walker, G. J., **Ito, E.**, & Hagi, Y. (2017). Theorizing leisure's roles in the pursuit of ikigai (life worthiness): A mixed-methods approach. *Leisure Sciences,* Advance online publicaton. doi: 10.1080 / 01490400.2017.1356255 *Indexed in Scopus

■**伊藤央二**, Hinch, T. (2017). 国内スポーツツーリズム研究の系統的レビュー. *体育学研究, 62* (1), 773-787. doi: 10.5432/jjpehss.17007

■**伊藤央二**, 山口志郎, 山口泰雄, 伊藤克広, 高見彰. (2017). 日本におけるスポーツコミッションの設立プロセスの検討：さいたま市, 新潟市, 福岡市の事例報告. *イベント学研究*, *2*(1), 13-18.

■山口志郎, 高松祥平, **伊藤央二**, 岡安功. (2017). 中山間地域における持続可能なスポーツツーリズムの発展：吉野川のアウトドアスポーツを事例に. *生涯スポーツ学研究* , *14*(2), 41-52.

（著書）

■ **Ito, E.** (2018). Culture, ideal affect, and sport tourist motivations (case study). In J. Higham, T. Hinch, *Sport Tourism Development* (*3rd edition)*. Clevedon, UK Channel View Publications.

大井 達雄

(論文)

■**大井達雄.** (2017). デスティネーション・マーケティング時代のツーリズム情報の収集と活用. オペレーションズ・リサーチ：*経営の科学*, *62*(5), 301-308.

大浦 由美

(論文)

■**Oura, Y.** (2017). Transition of forest tourism policies in Japanese national forest management. *Tourism Planning & Development, 15*(1), 40-54. doi : 10.1080/21568316.2017.1333035 *Indexed in Scopus

大橋 直義

(論文)

■**大橋直義.** (2017). 伝記への執心―『扶桑略記』の歴史叙述、一隅―. 人間文化研究機構国文学研究資料館共同研究歴史叙述と文学編, *研究成果報告 歴史叙述と文学* (pp. 27-40). 東京: 国文学研究資料館.

■**大橋直義.** (2017). 中世文学研究と「歴史学」の交錯. 松田浩, 上原作和, 佐谷眞木人, 佐伯孝弘編, *古典文学の常識を疑う* (pp. 142-145). 東京: 勉誠出版.

■**大橋直義.** (2017). 道成寺文書概観 ー特に「縁起」をめぐる資料についてー. *国文研ニューズ*, 49,4-5.

■**大橋直義.**(2017). 道成寺建立縁起の展開と来歴. *特別展図録 道成寺と日高川―道成寺縁起と流域の宗教文化―* 143-144.

■**大橋直義.** (2017). 架蔵〔浄土真宗説話抜書〕翻刻抄―浄土真宗教団における『平家物語』関連説話の一端について―. 関西軍記物語研究会編, *軍記物語の窓 第五集*(pp. 341-362). 大阪:和泉書院.

(著書)

■**大橋直義** 編. (2017). *根来寺と延慶本『平家物語』―紀州地域の寺院空間と書物・言説.* 東京: 勉誠出版.

■**大橋直義** 共著. (2018). 延慶本平家物語全注釈第六本(巻十一). 延慶本注釈の会 編. *延慶本平家物語全注釈.* 東京：汲古書院.

■**大橋直義** 共著, 監修. (2017). 特別展図録「紀州地域と西国順礼」. 紀州経済史文化史研究所編. *特別展図録「紀州地域と西国順礼」.* 和歌山：和歌山大学紀州経済史文化史研究所.

尾久土 正己

(論文)

■**尾久土正己**, 岡部葵, 野津直樹, 中串孝志, 小澤友彦. (2017). ビッグデータから見た高野山開創1200年記念大法会. *和歌山大学観光学会学会誌『観光学』,17*,13-20.

小野 健吉

（論文）

■**小野健吉**. (2017). 日本の発掘庭園.　*南原實相寺発掘遺跡保存・整備および活用方案研究専門家会議資料集(朝鮮語)*, 90-106.

海津 一郎

（論文）

■**海津一朗**.(2017). 高野山御手印縁起と中世国家一紀州惣国一揆の歴史的前提一.　*和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要, 38*, 1-18.

加藤 久美

（論文）

■**Kato, K.** (2017). Debating sustainability in tourism. *Tourism Planning & Development, 15*(1), 55-67. doi: 10.1080/21568316.2017.1312508 *Indexed in Scopus

■**Kato, K.**, & Progano, R. N. (2017). Spiritual (walking) tourism as a foundation for sustainable destination development: Kumano-kodo pilgrimage, Wakayama, Japan. *Tourism Management Perspectives, 24,* 243-251. doi: 10.1016/j.tmp.2017.07.017 *Indexed in Scopus

■**Kato, K.**, & Horita, Y. (2017). Tourism research on Japan: A cross-cultural review. *Tourism Planning & Development, 15*(1), 3-25. doi: 10.1080/21568316.2017.1325392 *Indexed in Scopus

■Sharpley, R., **Kato, K.**, Horita, Y., & Yamada, Y. (2017). Editorial. *Tourism Planning & Development, 15*(1), 1-2. doi: 10.1080/21568316.2017.1366359 *Indexed in Scopus

■**加藤久美.** (2017). 伝統産業とサステナブルツーリズム～海女文化から学ぶ環境伝統知. *観光文化, 235号*, 23-24.

（著書）

■**Kato, K.** (2017). Spiritual resilience: Fukushima Community and recovery from 3.11. In Lew, A., & Cheer, J. (Eds). *Tourism Resilience and Adaptation to Environmental Change: Definitions and Frameworks* (pp. 236-249). London: Routledge.

■**Kato, K.**(2017). Walking to care: pilgrimage tourism & conservation. In Hall, C.M., Ram, Y., & Shoval, N. (Eds). *The Routledge International Handbook of Walking* (pp. 232-241). London: Routledge.

岸上 光克

（論文）

■八島雄士, **岸上光克.** (2017). 社会的企業における戦略マップの適用可能性-地域経営組織におけるアクションリサーチ-. *メルコ管理会計研究.*

佐々木 壮太郎

（論文）

■**佐々木壮太郎.** (2017). 観光地のブランディング. *平成29年度観光庁事業「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」実施報告書* (pp. 70-77). 和歌山: 和歌山大学.

佐野 楓

（論文）

■**佐野楓.** (2017). ツーリズム・マネジメントの最新動向と今後の展望ー用語の類似性に着目したクラスター分析. *和歌山大学観光学会学会誌『観光学』*,*18*,133-146.

澤田 知樹

（論文）

■**澤田知樹**. (2017). 合衆国憲法修正第1条と多様性の促進. *和歌山大学経済学会 研究年報*, 71-91.

竹林 明

（論文）

■**Takebayashi, H.**,Sasaki, S., &Takeda, A.(2017). Factors Influencing VisitorAcceptance Awareness? A Regional Branding Perspective. *和歌山大学経済学会『経済理論』*, 第391号, 55-74.

竹林 浩志

（論文）

■大橋昭一, **竹林浩志.** (2017). 組織の新しいとらえ方 ー組織記号論をめぐる諸論調. *和歌山大学経済学会『経済理論』, 第392号* [予定].

永井 隼人

（論文）

■八島雄士, **永井隼人,** ドーリング・アダム. (2017). 日本版DMO候補法人と地域コミュニティーとの関わり: 収入構造の視点から. *日本国際観光学会論文集*, 第25号, 141-147.

■Tkaczynski, A., **Nagai, H.**, & Rundle-Thiele, S. R. (2017). Australian students' activity preferences, perceived physical risk and interest in vacationing in Japan. *Journal of Vacation Marketing,* Advance online publication.
doi: 10.1177/1356766717736348 *Indexed in Scopus

（著書）

■**Nagai, H.,** & Kashiwagi, S. (2018). Japanese students on educational tourism: Current trends and challenges In C. Khoo-Lattimore, E. Yang (Eds.), *Asian Youth Travellers: Insights and Implications* (pp. 117-134). Singapore: Springer.

中串 孝志

(論文)

■尾久土正己, 岡部葵, 野津直樹, **中串孝志,** 小澤友彦. (2017). ビッグデータから見た高野山開創1200年大法会. *和歌山大学観光学会学会誌『観光学』*, *17,* 13-20.

■**中串孝志**. (2017). 2017年3月14日 福島第一原子力発電所探訪記 *和歌山大学観光学会学会誌『観光学』*, 17, 57-65.

■Satoh, T., Sato, T.M., Nakamura, M., Kasaba, Y., Ueno, M., Suzuki, M., **Nakakushi. T.**, . . . Ohtsuki, S. (2017). Performance of Akatsuki/IR2 in Venus orbit: the first year. *Earth, Planets and Space*, Advance online publication. doi : 10.1186/s40623-017-0736-x *Indexed in Scopus

(著書)

■**中串孝志 編.** (2018). *観光からみた宇宙2* . 和歌山: 和歌山大学国際観光学研究センター.

永瀬 節治

(論文)

■**永瀬節治**, 柿木理菜, 赤澤由真, 柿木理菜. (2017). まちなかの地域資源を活かした公民学連携による体験プログラムの可能性 ー和歌山市駅周辺における「市駅まちぐるみミュージアム」の実践を通じてー。*和歌山大学観光学会学会誌『観光学』*, *17,* 21-34.

(著書)

■**永瀬節治**. (2017). 第19章 豊田市足助:歴史的環境が切り拓く交流型まちづくりの可能性. 西村幸夫・野澤康編. *まちを読み解く ー景観・歴史・地域づくりー* (pp. 92-97). 東京: 朝倉書店.

■**永瀬節治**. (2017). 第23章 出雲:近代の郷土意識が生んだ空間創出の物語を発掘する. 西村幸夫・野澤康編. *まちを読み解く ー景観・歴史・地域づくりー* (pp. 112-117). 東京: 朝倉書店.

彦次 佳

(論文)

■**彦次佳**, 村瀬浩二. (2018). 大学体育専攻生を対象としたバスケットボール講義における楽しさの類型化. *和歌山大学教育学部紀要*, *68*(2), 87-91. doi: 10.19002/AN00257999.68(2).87

■**彦次佳**. (2018). 大学バスケットボール実技講義における楽しさとモチベーション. *和歌山大学学芸学会『学芸』*, *64*, 119-125.

■**彦次佳**. (2018). 専攻のちがいによる大学体育実技の楽しさに関する考察-体育専攻生と一般学生との比較から-. *和歌山大学学芸学会『学芸』*, *64*, 127-133.

廣岡 裕一

(論文)

■金岡純代, **廣岡裕一**. (2017). 観光学にかかる大学間連携の取り組みにかかる考察. *和歌山大学観光学会学会誌『観光学』*, 18, 55-62.

藤田武弘

（論文）

■貫田理紗, 藤井至, **藤田武弘.** (2017). 農業・農村の担い手確保からみた都市農村交流活動の役割と意義. *日本農業市場学会『農業市場研究』*, *26*(1), 65-71.

堀田 祐三子

（論文）

■**Horita, Y.** (2017). Urban development and tourism in Japanese cities. *Tourism Planning & Development, 15*(1), 26-39. doi: 10.1080/21568316.2017.1313774 *Indexed in Scopus

■Kato K., & **Horita, Y.** (2017). *Tourism research on Japan: A cross-cultural review. Tourism Planning & Development, 15*(1), 3-25. doi: 10.1080/21568316.2017.1325392 *Indexed in Scopus

八島 雄士

（著書）

■**八島雄士.** (2017). *セルフイノベーションの管理会計 - 社会変革に対応した業績評価のあり方.* 東京: 中央経済社.

山田 良治

（論文）

■**山田良治**.（2017）. 労働・レジャー関係の今日的局面. *和歌山大学観光学会学会誌『観光学』, 18*, 119 -131.

（著書）

■**山田良治**. (2017). 都市空間形成における矛盾論についての覚書. 棚澤能生, 佐藤岩夫, 高橋寿一, 高村学人 編. *現代都市法の課題と展望*(pp. 95-117). 東京: 日本評論社.

吉田 道代

（論文）

■村上はるか, 寺澤愛望, 井上育美, 橋井智美, 弘瀬まち香, **吉田道代**. (2017). 大学で観光を学ぶ意義ー和歌山大学観光学部学生の視点から *和歌山大学観光学会学会誌『観光学』*, *18*, 73-80.

（著書）

■**吉田道代.** (2018). シドニーのエスニック・タウンーライカートにおけるイタリア系コミュニティの拠点再構築の試み. 堤純（編著）, *変貌する現代オーストラリアの都市社会* (pp. 98-112), 東京：筑波大学出版会.

■**吉田道代.**(2018). Column⑤ 多様性を活かした都市観光の推進ーシドニーの事例. 堤純（編著）, *変貌する現代オーストラリアの都市社会* (pp. 113-115), 東京：筑波大学出版会.

2.1.2. 登録研究プロジェクト一覧

2.1.2.1. 科学研究費助成事業採択研究課題

研究種別	代表者	研究課題	研究分野
基盤研究B	Brent W. Ritchie	Protecting international tourists from harm: Developing an effective tourist hazard information system	観光学
	小野 健吉	歴史と現状からみた庭園の観光資源としての可能性に関する研究ー欧州との比較から	観光学
基盤研究C	足立 基浩	観光エリアマネジメント活動が地方の市街地の経済活動に与える効果に関する研究	観光学
	大井 達雄	空間統計学による観光市場の地域特性の把握と地理情報の高度化に関する研究	観光学
	大浦 由美	国有林野の「協働型管理」におけるツーリズム活用・創出の意義と課題	観光学
	尾久土 正巳	フレームレス超高解像度映像による東京オリンピックの博物館資料化	文化財科学・博物館学
	海津 一朗	中世の紀伊半島における歴史遺跡・名所の創作および保存・活用事業データベースの作成	観光学
	辻 和良	地方創生時代の農産物直売所に求められる機能と新たな運営方式に関する研究	社会・開発農学
	藤田 武弘	新たな人口移動を契機とする農山村地域の経済及びコミュニティの変容に関する研究	観光学
	堀田 祐三子	観光の発展に伴う都市空間形成の変化と生活者による空間への関与に関する研究	観光学
	山田 良治	知識労働の発展と観光行動の高度化との相互関係に関する日英比較研究	観光学
挑戦的萌芽研究	加藤 久美	ツーリズムによる希望の創出：クリティカル、サステナブルツーリズムの理論と実践	観光学
若手研究B	Abhik Chakraborty	人新世におけるアルパイン・ツーリズムの課題と可能性の分析	観光学
	伊藤 央二	国内外のマスターズスポーツ大会参加者のスポーツツーリスト行動に関する実証研究	スポーツ科学・観光学

研究種別	代表者	研究課題	研究分野
若手研究B	木川 剛志	「都市カーネル」を指標とした「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実践的研究	都市計画・建築計画,デザイン学
	佐野 楓	ツーリズム2.0時代のソーシャル・メディアマーケティング競争優位に関する研究	観光学
	永井 隼人	An exploratory study on minimizing travel-related risks among young Japanese travelling overseas	観光学
	永瀬 節治	人口希薄地域における生活・生業系文化遺産を対象とした観光マネジメントに関する研究	観光学

2.1.2.2. CTR助成研究プロジェクト
<CTR事業企画助成プログラム>

CTRでは半期ごとに研究員からの事業企画申請を受け付け、CTRミッションに沿う企画を審査の上、半期最大5件までの助成を行い、観光学研究の促進と発展を目指している。※2017年度は、後期に追加募集を行い、2件を追加採択した。

代表者	研究課題
Adam Doering	Sensing the sea: Reimagining the Fukushima seascape through an ethics of care - Part 1
Graham Miller	Global Sustainable Tourism Dashboard日本版開発のための予備調査
加藤 久美	Wellness & Sustainable Tourism調査 についての現地調査
加藤 久美	Women, Wellness & Sustainable Tourism 研究会
加藤 久美	Two Caminos – exploring contemporary spirituality in walking tourism: Camino de Santiago and Kumano-kodo
廣岡 裕一	シンポジウム開催（UNWTO認定 国際観光映像祭を目指して）
八島 雄士	フィールドワークを含む実務家向け, 白浜DMOセミナー
八島 雄士	観光資源の開発支援に関わる地方銀行の投融資行動の研究
八島 雄士	DMO形成に関わるスポーツの地域活性化への利活用の研究

代表者	研究課題
吉田 道代	縁結びツーリズムに関する調査
吉田 道代	日本におけるホロコースト関連ツーリズム―岐阜県八百津町・杉原千畝記念館を事例に
吉野 孝	ジオツアー支援システムの開発と社会実験の実施および成果発表

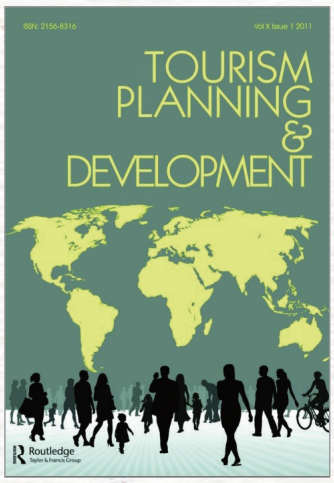
<CTR専任研究員研究スタートアップ支援プログラム>

若手研究者育成の一環で、CTR専任研究員の研究スタートアップ支援として、研究費助成およびメンターやCTRコーディネーターによる活動支援を行うプログラムを実施した。審査の上、申請のあった2件を採択し、外部資金獲得への発展を奨励した。

代表者	研究課題
Abhik Chakraborty	UNESCO世界自然遺産地域における自然保護のツールとしてエコツーリズムモデルの提案
Amnaj Khaokhrueamuang	Sustainable Green Tourism Development in the Tea Cultivated Communities of Japan and Thailand

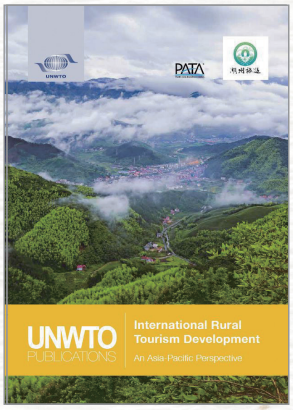
2.1.3. 英文論文集出版

日本の観光産業、研究、教育を取り巻く社会、経済、政治的状況についてあらゆる切り口から論じた、観光学研究の主要な学術誌であるTaylor & Francis社の「Tourism Planning & Development」の特集号「Tourism Development in Japan: Issues and Challenges – A Focus on Regions and Communities」(2018年2月15巻1号)が出版された。本学特別主幹教授/CTR副センター長であるRichard Sharpley教授を編集主幹に、CTR研究員3名(山田良治 和歌山大学名誉教授/CTR特任教授、加藤久美 観光学部教授/CTR副センター長、堀田祐三子 観光学部教授)が客員編集員を務めた。上述4名を含むCTR研究員9名による全8編と、本学観光学研究科博士後期課程1名による1編の計9編が、査読を経て掲載された。



2.1.4. 国際研究協力（リサーチコーディネート）

UNWTOアジア太平洋部が取り組む「UNWTO Report on International Rural Tourism Development」に日本の事例として熊野古道が採択され、この取材先となった一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューローとの調整等にCTRコーディネーター藤井琢哉が協力した。このレポートは、UNWTOと太平洋アジア旅行協会 (PATA) によって7月17日（月）に中国浙江省湖州市で開催された「The Second International Rural Tourism Conference」で発表された他、冊子としてUNWTOより出版された。



2.1.5. 研究集会開催

2月1日（水）、2017年度CTR研究集会を開催し、CTR研究員がCTR助成を受けて取り組んだ研究プロジェクト（上記CTR事業企画助成プログラムおよびCTR専任研究員研究スタートアップ支援プログラム）の活動及び成果報告を行った。全14プロジェクトの発表の中では、客員研究員による発表も行われた。本集会は学生を含む一般にも公開し、質疑応答の際には日本語と英語を織り交ぜながら活発な議論が行われた。また、機能強化プロジェクトに指定されている4つの研究ユニット（Food & Agriculture、Space & Mobility、Digital Media & Information、DMO）もこれまでの活動を報告するポスターを展示した。本学特別主幹教授でありCTR副センター長のRichard Sharpley教授が総括を務め、今後もこういった取り組みを通じて、研究文化を育み成果を推進していくことへ激励があった。さらに、研究集会終了後には、客員研究員も含めた研究員交流会も開催された。

2.2. 研究・教育サポート

2.2.1. 研究相談会開催

観光学研究科（博士前・後期課程）の学生向けに、本学特別主幹教授による国際的視野に立った観光学研究指導の研究相談会を開催した。世界の観光研究の最先端で活躍する教授陣から、学生達は自身の研究に対するアドバイスを得た。また、CTR研究員も特別主幹教授による研究会の場や、個別面談で議論を交えながら研究への示唆を得た。

2.2.2. 学会等イベント開催支援

●「The 6th Asian Forum for the Next Generation of the Social Science of Sport」共催

8月21日（月）より3日間、「The 6th Asian Forum for the Next Generation of the Social Science of Sport」が開催された。本フォーラムは、主にアジアの次世代の若手研究者や学生のための研究発表の場の提供を目的に例年開催しており、2017年は本学で開催、CTRが共催した。「The State and Future of Sport Events and Tourism in Asia」というテーマの下、国内外合わせて約80名の参加があり、ポスター発表を含めたさまざまな発表と活発な議論が行われた。

●World Tourism Day

世界観光の日 記念イベント2017パネル展示後援

PATA和歌山大学学生支部によるWorld Tourism Day 世界観光の日 記念イベント2017パネル展示「サステナブル・ツーリズムの学び ～PATA和歌山大学学生支部の研修旅行より～」をCTRが後援した。9月27日はUNWTOが定めた世界観光の日（World Tourism Day）として、1980年より毎年のテーマにそって世界各地でセミナー、イベントが開催されている。2017年のテーマである「Sustainable Tourism – a Tool for Development（持続可能な観光 ー開発のためのツールのひとつとして）」に対し、同支部メンバーが、和歌山県田辺市および白浜町で行った研修をもとに、学生からみた“サステナビリティ”と“サステナブル・ツーリズム”についてポスターにまとめ、本学観光学部棟内で1か月にわたって展示発表を行った。

2.2.3. 観光学部授業科目の開講支援

●特別主幹教授およびCTR専任スタッフによる授業科目開講支援

本学特別主幹教授6名の教育活動として、観光学部及び観光学研究科の一部科目（観光学部科目に関してはグローバル・プログラム（GP）対象科目）を開講した。主に、CTR専任研究員との共同担当として集中講義の形式をとった。2017年度開講科目は下記の通りで、2018年度に向けても引き続き調整を行っている。さらに、CTR専任研究員3名も観光学研究科の科目およびGP対象科目それぞれ年間2～3科目を担当した。

●担当科目一覧

観光学部

科目名	担当者
Activity for Project	Abhik Chakraborty
Activity for Project	Adam Doering
Community Based Tourism	Amnaj Khaokhrueamuan
Critical Issues in Tourism A	Thomas Hinch, Gordon J. Walker
Critical Issues in Tourism B	Brent W. Ritchie
Dark Tourism Project	Richard Sharpley
International Organizations in Tourism	Abhik Chakraborty
Sustainability and Management	Graham Miller
Tourism and Environment B	Adam Doering
Tourism Policy and Law A	Anna Leask
Tourism Policy and Law B	Amnaj Khaokhrueamuan

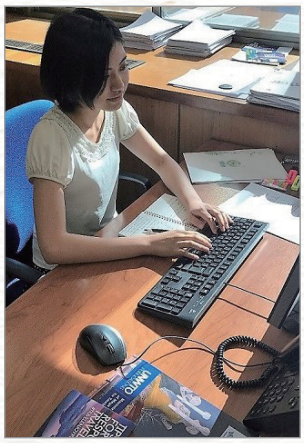
観光学研究科

科目名	担当者
Critical Issues in Nature Based Tourism	Abhik Chakraborty
Leisure and Sport Tourism	Thomas Hinch, Gordon J. Walker
Sustainability and Management	Graham Miller
The Ethics of Tourism and Travel	Adam Doering
Tourism and Heritage Management	Abhik Chakraborty, Anna Leask
Tourism Development and Community	Amnaj Khaokhrueamuan, Richard Sharpley
Tourism Risk Management	Brent W. Ritchie

2.2.4. 外部機関連携活動の支援・促進

2.2.4.1. 国際機関との連携

●UNWTOインターンシップ参加支援



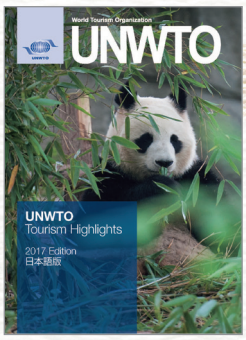
観光庁による2017年UNWTO本部（スペイン・マドリッド）でのインターンシップ・プログラム公募に対し、CTRにてコーディネートを行った学内公募選考を経て本学より推薦した観光学部4回生 嶋川久瑠実さんが採用となり、8月1日から約5か月間、現地でインターンシップを実施した。観光、スポーツ、メガイベントのアドバイザー部門でスポーツツーリズム、特にウォーキング、ハイキングを通じた地域振興の事例を調査したほか、UNWTOの主催会議の運営や準備の支援を世界各国のスタッフやインターン生とともに行った。

●UNWTO 学生ボランティアグループ活動支援

UNWTOの活動を普及する取り組みを、ボランティアとして観光学部や経済学部の学生が主体的に進めており、CTRがその活動を支援している。主な取り組みは、UNWTO発行資料の翻訳協力と、同機関が提唱する世界観光倫理憲章(Global Code of Ethics for Tourism / GCET) を次世代に伝えるためのコンテンツ開発である。

●翻訳協力

「UNWTO Tourism Highlights 2017」

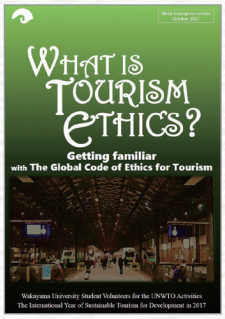


観光学部及び観光学研究科から計10名の学生が、過去1年間の世界観光統計のダイジェストである「UNWTO Tourism Highlights」の日本語版の制作に協力した。UNWTOが作成した英語オリジナル版の翻訳やデータの校正などを行い、完成した冊子は12月に奈良県所在UNWTOアジア太平洋センターから刊行され、和歌山大学学内を始め、国内の各種イベント等で配布されている。

「責任ある旅行者になるためのヒント」

UNWTOでは、上述GCETの普及促進に取り組んでおり、国連の定めた「開発のための持続可能な観光国際年2017」に合わせ、一般向けに「Travel. Enjoy. Respectキャンペーン」を展開した。その一環として発行されたパンフレット「The Tips for Responsible Traveller」の日本語版の制作に学生ボランティアグループが協力した。この「責任ある旅行者になるためのヒント」と題された日本語版パンフレットもUNWTOアジア太平洋センターから配布されている。

●コンテンツ開発



GCETの普及促進に貢献するため、学生ボランティアグループでは、全10条からなる条文を子供でも理解できるコンテンツとすることを目指し、平易な英語と親しみやすい絵本仕立ての冊子「What Is Tourism Ethics?」を作成した。さらに、世界中で観光教育のツールとして利用してもらえるようウェブコンテンツへの展開も進めている。試験的にプレサイトを開設し、手軽にアクセスできるようQRコードを印刷した名刺サイズのカードを学内外で広く配布した。

●成果発表

〈展示会ブース出展〉

東京で9月22日（金）から24日（日）に開催された「ツーリズムEXPOジャパン2017」に、UNWTOアジア太平洋センターがブースを出展し、学生ボランティアグループから5名が設営と運営に協力し、上記翻訳冊子やコンテンツ開発の発表を行った（36ページ参照）。

〈UNWTO国際会議参加〉

10月8日（日）から10日（水）にスペインで開催されたThe 2nd UNWTO Global Conference on Talent Developmentに学生ボランティアグループから4名が参加した。「Idea Competition for Talent Development for Tourism Destinations」ファイナリストとして上記GCET普及コンテンツ開発プロジェクトを発表し、最優秀賞を受賞した（38ページ参照）。本受賞と同グループの取り組みは、2017年12月2日付けのニュース和歌山でも紹介された。

〈関係者への発表〉

GCETコンテンツの開発について、GCETを重要な観点としている観光教育認証TedQualの監査官の来学に合わせ、プロジェクト内容を発表し、学生は貴重なフィードバックを得た。

●ASEAN+3・ツーリズム・ユース・サミット2017への派遣協力およびプログラム開催支援

「ASEAN+3・ツーリズム・ユース・サミット」は、次世代を担う若者の育成を目的にASEAN+3域内の観光を学ぶ若者を対象として、2017年9月18日（月）～30日（土）にかけてフィリピンとタイで開催され、本学からも観光学部の学生1名が参加した。フォローアッププログラムとして、「ASEAN+3・ツーリズム・ユース・サミット・イン・ジャパン」が観光庁の主催で10月15日（日）から日本国内で始まり、ASEANと韓国および日本から計10名が参加した。その初日のプログラムであるワークショップが、CTRの協力により本学で開催された。

このワークショップでは、国連フォーラム共同代表 田瀬和夫氏による基調講座の後、観光に関わる多様なステークホルダー間の持続可能な関係や、観光における女性の役割、観光開発における若者の視点といったテーマについて議論が交わされた。また、和歌山の地域の食材を使った弁当が振る舞われたランチディスカッションでは、本学の学生が和歌山の食や文化、観光地の紹介を行った。

続いて10月18日（水）に三重県鳥羽で開催された「持続可能な観光国際年」記念国際観光シンポジウム でも「ASEAN+3・ツーリズム・ユース・サミット」の特別セッションがプログラムされ、サミット参加者がタイとフィリピンでの体験報告に加え、「若者が考える持続可能な観光を通した未来への貢献」についてディスカッションを行った（39ページ参照）。先立って本学で開催されたワークショップでの議論を踏まえ、各自意見を発表した。

2.2.4.2. 国内機関との連携

●観光庁「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」実施協力

2016年度に引き続き観光庁事業「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」に採択され、本学観光学部を中心に「デスティネーションの観光産業を担う中核人材育成講座～地域でがんばる観光産業の次世代リーダーを応援します～」を大阪市内の会場にて開講した。この講座は、観光デスティネーションにおける宿泊施設等の観光関連事業に従事する幹部及び幹部候補を主な対象に、各事業者及び各デスティネーションの発展に寄与する中核的人材を養成することを目的として、CTR専任研究員Adam Doering 准教授を始め、多くのCTR研究員やCTR客員研究員が講義を受け持った。また、フォローアップ研修として、CTRのDMO研究ユニットが「これからの白浜とDMOを体感する」をテーマとした宿泊型フィールドワークを和歌山県白浜町にて実施した。

2.2.4.3. 海外研究教育機関との提携

●ウズベキスタン共和国ブハラ国立大学との大学間交流協定（MOU）締結

CTRの主導により、中央アジアのウズベキスタン共和国Bukhara State Universityと本学との交流協定が締結され、2018年4月には調印式が執り行われた。現在、ウズベキスタンでは観光開発への関心が高まっており、同大学でも観光学部や観光関連の研究センターが開設されている。同観光学部は設置後約10年、学生数約500名、教員数24名と歴史や規模など本学観光学部との類似点が多く、本学同様に英語による授業も提供されている。今後、交換留学制度や、CTRとの共同プロジェクト等への展開が期待される。

その他にも各国の研究教育機関との提携機会を探り、積極的にネットワークを展開していく方針。

2.2.5. UNWTO. TedQual認証取得支援

CTRの支援の下、2017年3月、本学観光学部がUNWTOの関連組織であるUNWTO Themis Foundationが実施する認証制度「UNWTO. TedQual（Tourism Education Quality）（以下TedQual）」の認証を取得した。100項目以上の厳しい基準による審査を受け、国内では初めての取得となった。

Themis Foundationは、UNWTOの加盟国に向けた観光に関する教育・訓練プログラムの履行を担う独立組織で、UNWTOの掲げる観光分野の健全な発展の実現に貢献する人材育成を支援している。TedQualとは、観光学教育、研究、訓練プログラムの質の向上を目的とし、世界の観光学教育・研究をリードする大学、研究機関が認証を受けている。世界基準の評価を受けるだけでなく、観光教育、研究のグローバルネットワーク（交換プログラム、共同研究、国際学会等）への参加やThemis Foundationとの共同プログラムの実現が可能となる。7月には、中国で開催されたTedQualワークショップに登壇した（詳細36ページ参照）。今後さらに、国際舞台での本学観光学部及びCTRのプレゼンスを高め、日本そしてアジア太平洋地域における観光学研究の牽引機関としての発展が期待される。

2.2.6. 観光学部FD・SD活動支援

●英語開講授業研修プログラムの事前調査

非英語母語話者による英語開講授業のトレーニングプログラムをもつカナダのUniversity of Alberta, Faculty of Extensionと共同で、本学向けのプログラム開発にあたる事前調査として、同機関からPamela Young氏が5日間に渡る実地調査を行った。FD研修、SD研修、博士後期課程学生向け研修という3つの観点でインタビューや資料・現況分析を進め、課題を明確化した。

具体的には、FD研修：英語開講授業について、授業参観、教員・学生へのインタビューとシラバスの分析、SD研修：業務での英語対応状況について、観光学部とCTRの事務職員に記述式質問票を配布の上でのインタビュー、博士後期課程学生研修：英文での出版支援について、留学生へのインタビューを行った。それぞれトレーニングの必要性が明らかになった他、組織レベルでの改善が望まれることが分かり、実際の研修プログラムについて検討を進めている。

●国際研修

FD研修の一環として、本学が賛助会員となっているUNWTOの活動について理解を深め、ネットワーク拡充を促進するため、CTR研究員（観光学部教員）がUNWTO主催の国際会議に出席する支援をした。この研修を機に、外部の機関との連携も進んでいる。

また、SD研修としては、他大学の管理運営、教務関係業務の研修のため学務課学務第四係の事務職員1名が本学協定校であるインドネシアGadjah Mada Universityでの意見交換と、同時に同大学で開催された国際学会Critical Tourism Studies -Asia Pacific Inaugural Biennial Conferenceの視察を行う支援をした。

その他、CTR研究員やコーディネーターの海外活動を支えるCTR事務職員も、国際業務の運用能力強化のため、UNWTO主催の会議や国際学会APTAの視察を行った。

●セミナー・ワークショップ開催

TedQual認証プログラムの諮問委員及び監査役を務めるLisa Ruhanen准教授（University of Queensland）とUNWTOの教育担当部門UNWTO Themis Foundation国際連携担当で同認証監査員を務めるEdith M. Szivas 教授（Modul University）による、ダイバーシティと観光倫理にフォーカスを当てたTedQualプラグラムの活用研修を観光学部教員向けに開催した。TedQualの認証項目は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から示された新たな重点評価項目（教育の内部質保証）のグローバルスタンダードでもあることから、観光学部での取り組みが全学の法人評価にとっても重要な意味をもち、全学的に展開していくことが期待される。

●学内国際化支援

世界水準の教育研究プログラム及び大学組織の維持・向上を主導する役割を担うCTRでは、学内国際化支援の一環として、TedQual認証の継続的取得への取り組みを進めている。

●他大学への国際化現況聞き取り・視察

国際化を進めている下記の国内各大学に対し、国際業務、教務、財務、同窓会、FD・SDプログラム等について幅広く聞き取りを実施し、情報交換を行った。

■北星学園大学
■奈良先端科学技術大学院大学
■立命館アジア太平洋大学
■横浜国立大学

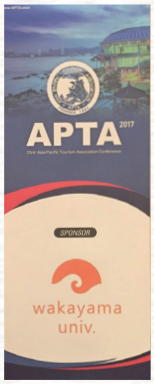
●国際教育会議出席

北米を中心とした国際教育交流機関NAFSA (National Association for Foreign Student Affairs: Association of International Educators)の年次大会に出席した。本大会は毎年、世界100か国以上から約1万人が参加する6日間にも渡る業界世界最大規模のイベントで、ワークショップ、各種発表交流セッション、講演、ブース出展（EXPO）等がプログラムされている。2017年大会は5月28日（日）～6月2日（金）にかけて米ロサンゼルスで開催された。世界の教育現場のトレンドや課題について情報を得た他、EXPOに日本合同ブースとして出展していた各大学の担当者と情報交換を行った。

2.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー

2.3.1. 学会スポンサー参加

●「APTA Annual Conference 2017」



6月18日（日）から21日（水）にかけ、Asia Pacific Tourism Association (APTA) の第23回大会が韓国・釜山で開催された。APTAは1995年に創設された国際学会で、有力学術雑誌Asia Pacific Journal of Tourism Researchを発行するなど、アジア太平洋地域で最も活発な観光研究の国際学会の１つであり、今大会にはアジアを中心に世界各国から約250名の研究者が参加した。CTRから５名の研究者、及び本学大学院観光学研究科博士後期課程の２名の大学院生が参加し、CTR・観光学研究科を拠点に取り組んでいる研究プロジェクト、また学外の研究者と共同で取り組んでいる研究プロジェクトについて計６本の論文を発表した。また、本学では3年間継続してスポンサーとしてAPTAの年次大会に協賛しており、大会期間中はスポンサー紹介パネルが会場に設置された他、学会プログラムに広告が掲載され、研究発表参加に加えて多くの国外の研究者に本学の観光教育、研究について紹介する機会となった。

●「Critical Tourism Studies Asia Pacific Inaugural Biennial Conference」

Critical Tourism Studies (CTS) は2005年に設立された研究ネットワークで、Critical Tourism Studies-Asia Pacific (CTS-AP) は、2016年３月にCTR設置準備室が開催した研究会「Sustainability & Tourism」を発端に、その参加者が中心となって「アジアでの環境変化、社会、文化の変容とツーリズムの関わりを、地域、コミュニティの視点から議論、より持続可能な社会の実現に貢献する」ことを目的にCTSのアジア太平洋部会として創設した。CTS-AP第１回学術大会は2018年３月3日（土）~6日（火）にかけて、インドネシアのGadjah Mada Universityで開催され、CTRがスポンサーとなったほか、CTR研究員が大会企画、論文査読、運営に関わった。23カ国、161名の発表があり、本学からは学生10名（博士課程４名、修士課程４名、学士課程２名）、教職員５名が出席した。CTS-APでは、大会の成果としてジャーナル特集号及び書籍による発表を計画している。第2回大会は2020年２月に本学での開催を予定している。

2.3.2. ニュースレター発行

CTRと観光学部の観光教育サポートオフィスとの共同編集・発行による年2回発行のニュースレター「WTU（Wakayama University Tourism Update）」が4月と10月に発行された。CTR・観光学部それぞれの国内外の観光研究情報の発信及び国内外問わず活動している学生の取り組みについて紹介している。

2.3.3. 外部機関との連携促進

●国際連合「開発のための持続可能な観光国際年（International Year of Sustainable Tourism for Development / IYSTD）」推進協力

国連は毎年、平和と安全、開発、人権の問題など、特定のテーマを制定し、一年を通してそれに対する取組を促進することで国際社会の関心を喚起している。2017年は「IYSTD」と定め、UNWTO（国連世界観光機関）がこの取組を主導し、アフィリエイト・メンバーである本学もこの趣旨に賛同して、CTR・観光学部共同で各種活動や研究、イベントを通じたIYSTDの推進に努めた。観光学部のウェブサイトで対象となる事業やUNWTO作成のプロモーションビデオを紹介した他、協力機関としてIYSTDの公式ウェブサイト（http://www.tourism4development2017.org/）にも登録された。

●UNWTO各会議・地域大会参加等

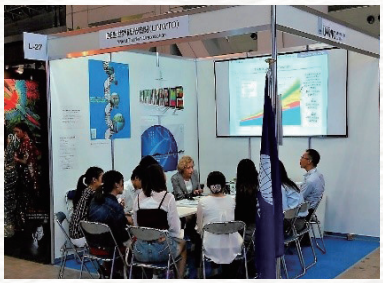
●「UNWTO 6th International Conference on Tourism Statistics: Measuring Sustainable Tourism」出席

UNWTOは、6月21日（水）～23日（金）の日程で、6回目となる観光統計に関する国際会議をフィリピン共和国マニラで開催した。注目度が高いテーマであり、世界89の国と地域から約1,000名もの参加者が一堂に会した。2017年は、国連が定めた「開発のための持続可能な観光の国際年（IYSTD）」であり、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals / SDGs）」達成のためには、観光統計の世界標準となるフレームワーク（Measuring Sustainable Tourism）を策定し、データに基づく観光推進が重要であるとの合意の下、「マニラ行動宣言（Manila Call for Action）」が採択された。CTRでも、2018年度にビッグデータをテーマとした公開セミナーの開催を計画している。

●「The 2nd UNWTO/UNESCO World Conference on Tourism and Culture : Fostering Sustainable Development」出席

12月9日(土)～14日(木)にかけて、UNWTOとUNESCO(国際連合教育科学文化機関)が観光と文化に関する国際会議をオマーン国マスカット市にて開催した。本会合もIYSTDの公式イベントの位置づけで、文化財保護やSDGs戦略をテーマとしたセッションがプログラムされ、参加者は中東、欧州、アフリカ等約70ヵ国から約800名に上った。また、本会議の成果として、コミュニティに恩恵を与える文化と自然を守る責任ある観光をUNESCOとUNWTO他が連携して促進することを示す「マスカット宣言」が策定された。さらに、次回第3回(2018年)はトルコのイスタンブール、第4回(2019年)は京都での開催が決定した。京都開催においてはCTRも何らかの協力を考えていきたい。

●「ツーリズムEXPOジャパン2017」出展支援



9月22日(金)から24日(日)の3日間に渡って開催された「ツーリズムEXPOジャパン2017」に、UNWTOが出展したブースの設営および運営を、CTRコーディネートのもと、本学学生ボランティアグループが協力した。同ブースでは、大学生等を対象とし、観光分野の第一線で活躍する様々な講師による特別講義がゼミナール形式で開催され、この中で同グループから参加した5名が、ボランティアとして取り組むUNWTOに関連する活動について発表した。同グループは、UNWTOアジア太平洋センターが発行している観光統計集である「UNWTO Tourism Highlights 日本語版」の翻訳やUNWTOが提唱している「世界観光倫理憲章(GCET)」の普及促進に取り組んでいる(30ページ参照)。これらの取り組みの成果として、同センターにより発行された「責任ある旅行者になるためのヒント(The Tips for Responsible Traveller)」やGCETの次世代への理解促進を目的として独自に作成した小冊子「What is Tourism Ethics?」がEXPO期間中にブースにて配布された。

●UNWTO.Themis Foundationとの共同プログラム

●「UNWTO.TedQualワークショップ」

7月27日(木)に中国・広東省の中山大学にて開催された「UNWTO.TedQualワークショップ」にCTR副センター長 加藤久美とCTRエグゼクティブオフィサー中元一恵が登壇し、「UNWTO.TedQual(以下TedQual)」認証にあたる本学の事例を紹介した。これは、この認証制度を運営している本ワークショップは、UNWTO. Themis Foundationが中山大学と共催したイベントで、当認証制度への申請を検討している中国国内の約50機関から100名近くが参加した。Themis Foundationは今後、認証を取得した機関をメンターとして位置づけ、各国とのコミュニケーションの深化を図る意向で、本学の役割が期待される。

●「Asia Pacific TedQual Conference」

上記「UNWTO.TedQualワークショップ」の展開の一つとして、CTRとThe University of Queensland（オーストラリア）共催による「Asia Pacific TedQual Conference」の2019年2月のオーストラリアでの開催を予定し、企画を進めている。アジア太平洋地域でのさらなるTedQualの認知向上と認証取得の後押しを目指す。これによって、認証校拡大による社会的利益の増大だけでなく、認証校のネットワーク拡充によるさまざまな相乗効果によって認証価値の逓増が期待される。

●TedQual認証メンバー共同プログラム

UNWTO. Themis Foundationの相互連携プログラムとして、認証校であるUniversity of Andorra（アンドラ）、Colorado State University（米国）、Lucerne University of Applied Sciences and Arts（スイス）が共同で行う2018年10月開始の大学院プログラム「Postgraduate Diploma in Mountain Destination Management」へ本学もモジュール提供を行い協力することを協議している。

●「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」補助金実施への協力

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」補助金を受け、女性研究者の研究力向上・リーダー育成を目指すダイバーシティセミナー「観光学分野における女性研究者のエンパワメント：研究, 教育, キャリア開発」がCTRと本学観光学部の共催で2月14日（水）に本学にて開催された。University of QueenslandのLisa Ruhanen准教授と、経営者としての顔も持つUNWTO Themis FoundationのEdith M. Szivas博士を招へいし、それぞれオーストラリアとヨーロッパでの経歴をもとに職場における男女平等について講演を行った。

2.3.4. 学会、イベント参加等

2.3.4.1. 参加報告

●「日本地球惑星連合大会」出席

5月20日（土）から25日（木）の6日間にわたり、千葉で開催された日本地球惑星連合（Japan Geoscience Union / JpGU）とアメリカ地球物理学連合(American Geophysical Union / AGU)の共同大会にCTR専任研究員Abhik Chakrabortyが参加し、観光学に関連した3件の研究発表を行った。JpGUは国内最大の地学関係の学会で、AGUとの共同開催となった本年の共同大会は国際学会としての規模がさらに拡大され、参加者は8,000人を数えた。

●「International Symposium on Tourism for Peace」参加

8月9日(水)から11日(金)にかけて長崎で開催されたInternational Symposium on Tourism for Peace の2017年大会に、CTR専任研究員Amnaj Khaokhrueamuang講師が参加し、ダークツーリズムに関する研究発表を行った。本大会は、被爆72周年の長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典の開催に合わせて開催され、遺産やダークツーリズムにとどまらない観光に関する幅広いトピックの発表が行われた。

●特別講演会「持続可能な観光国際年-Sustainable Tourismを目指して」登壇

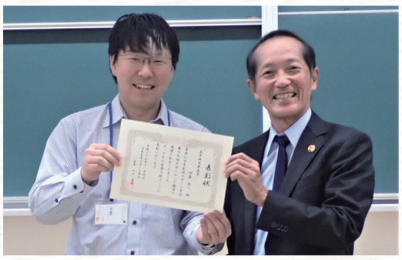
9月22日(金)UNWTO駐日事務所が、国連の定める2017年の「持続可能な観光国際年」をテーマに特別講演会「持続可能な観光国際年-Sustainable Tourismを目指して」を開催し、CTR副センター長Graham Miller本学特別主幹教授がゲストスピーカーとして登壇した。

●「2nd UNWTO Global Conference on Talent Development in Tourism」にて優勝

10月8日(日)から10日(水)の3日間、スペイン・マルベーリャにて開催された「2nd UNWTO Global Conference on Talent Development in Tourism」内で行われた「Idea Competition for Talent Development for Tourism Destinations」の最終プレゼンテーションに本学学生ボランティアグループの代表4名が臨み、世界各地からの50以上の応募の中から見事優勝した。同グループは、UNWTOが提唱する世界観光倫理憲章 (GCET) を次世代に伝えるためのコンテンツ開発等を進めており(30ページ参照)、この取り組みがUNWTO幹部等による審査員から評価された。

また、同会議では各国からの学生代表によるUNWTO幹部へのインタビューが行われ、アジア地域を代表して本学観光学部遠藤まりかさんが、UNWTOエグゼクティブ・ディレクターのCarlos Vogeler氏に対して、このほど条約化が決定したGCETの重要性等について、上記学生ボランティアグループによる普及のための取り組みを踏まえたインタビューを行った。この代表者の推薦や参加準備等をCTRにて支援した。

●「日本生涯スポーツ学会第19回大会」にて受賞



11月3日(金)～4日(土)に龍谷大学で開催された「日本生涯スポーツ学会第19回大会」にて、CTR研究員の伊藤央二講師(観光学部)の口頭発表「レジャー活動中の感情における即時報告と回顧報告の比較」が「若手研究発表賞2017」を受賞した。

●『持続可能な観光国際年』記念国際観光シンポジウム三重会議」登壇

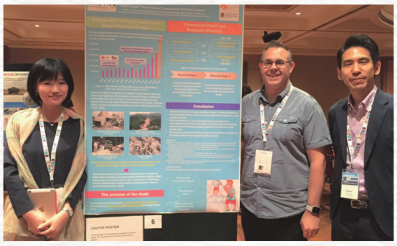
10月18日(水)、三重県鳥羽市で開催された「『持続可能な観光国際年』記念国際観光シンポジウム三重会議」に、CTR副センター長 加藤久美教授(観光学部)がモデレーターとして、観光学部4回生 小原里穂さんが「ASEAN+3・ツーリズム・ユース・サミット(31ページ参照)」の参加者代表として登壇した。

本会議は国連の定めた「開発のための持続可能な観光国際年2017」の理念を実現するために「観光業の持続可能な発展における女性の役割」をテーマとして、観光庁および三重県共催、UNWTO後援により開催された。

第3セッションで加藤教授がモデレーターを務め、ホテルの女性料理長、女性杜氏、バリアフリーツアーNPO法人女性代表をパネルに迎え、「持続可能な観光と女性が主役を担う観光地づくり」をテーマにディスカッションを進めた。

また、9月にフィリピンとタイで開催されていた「ASEAN+3・ツーリズム・ユース・サミット」の活動報告も特別セッションとしてプログラムされ、ASEAN各国と韓国および日本からの計10名が代表として体験談を紹介したほか、「若者が考える持続可能な観光を通した未来への貢献」についてディスカッションを行った。この特別セッションは、9月のメインプログラムに続くフォローアッププログラムである「ASEAN+3・ツーリズム・ユース・サミット・イン・ジャパン」の一環で、本会議直前の10月15日(日)には、CTRが協力し本学でワークショップを実施した。

●「CAUTHE Annual Conference 2018」参加



2018年2月5日(月)～8日(木)の日程で、Council for Australasian Tourism and Hospitality Education (CAUTHE) 第28回大会がオーストラリア・ニューキャッスル大学にて開催され、CTRから研究員の大浦由美 (観光学部教授)、吉田道代 (観光学部教授)、八島雄士 (観光学部教授)、佐野楓 (観光学部准教授)、永井隼人 (観光学部講師)、Adam Doering (CTR専任研究員/准教授)と村野美里 (CTRアシスタントコーディネーター) の合計7名が出席した。また、本学特別主幹教授のBrent W. Ritchie (CTRマネジメント研究ユニットリーダー/クイーンズランド大学教授)やCTR客員研究員の牧野恵美 (東京理科大学准教授) も大会に参加し、それぞれ現在取り組んでいる研究について発表を行った。

2.3.5. CTR出席イベント一覧

日　程	イベント名	主　催
4/14	2017年度JICA関西研修事業説明会（神戸）	JICA（独立行政法人国際協力機構）
4/26～4/27	WTTC Global Summit 2017 (Bangkok, Thailand)	WTTC (World Travel & Tourism Council)
5/30～6/2	NAFSA 2017 Annual Conference & Expo (Los Angeles, USA)	NAFSA、Association of International Educators
6/18～6/21	APTA 2017 Annual Conference (Busan, Korea)	APTA (Asia Pacific Tourism Association)
6/21～6/24	6th UNWTO International Conference on Tourism Statistics: Measuring Sustainable Tourism (Manila, Phillippines)	UNWTO、Department of Tourism, Philllipines
7/16～7/19	The 2nd UNWTO International Conference on Rural Tourism (Huzhou, China)	UNWTO、Huzhou City、PacificAsia Travel Association (PATA)
7/26～7/28	UNWTO.TedQual Conference (Zhuhai, China)	UNWTO Themis Foundation、中山大学
8/1	第6回 UNWTO活用検討会（東京）	観光庁
8/31～9/1	International Conference on Tourism and Business 2017 (Lucerne, Switzerland)	Lucerne University of Applied Science and Arts、Mahidol University International College
9/11～9/15	UNWTO 22nd General Assembly (Chengdu, China)	UNWTO、中国国家観光局
9/21～9/24	ツーリズムEXPOジャパン2017（東京）	公益社団法人日本観光振興協会、一般社団法人日本旅行業協会（JATA）、独立行政法人国際観光振興機構（日本政府観光局）
9/22	特別講演会「持続可能な観光国際年 -Sustainable Tourismを目指して-」（東京）	UNWTO駐日事務所
9/29	観光経営科学コース（観光MBAコース）開設記念国際シンポジウム（京都）	京都大学

日　程	イベント名	主　催
10/8～10/10	2nd UNWTO Global Conference on Talent Development in Tourism (Marbella, Spain)	UNWTO、Les Roches Marbella International School
10/18	「持続可能な観光国際年」記念国際観光シンポジウム三重会議（鳥羽）	観光庁、三重県
10/26～10/28	2017 Philippine Research Conference on Tourism and Hospitality (Quezon, Philippines)	University of the Philippines
11/13	第7回UNWTO活用検討会（東京）	観光庁
11/17	教育ITソリューションEXPO（大阪）	リードエグジビションジャパン株式会社
11/27～11/29	UNWTO Conference on Jobs and Inclusive Growth: Partnerships for Sustainable Tourism (Montego Bay, Jamaica	UNWTO、Government of Jamaica、World Bank Group
12/11~12/12	The 2nd UNWTO/UNESCO World Conference on Tourism and CultureFostering Sustainable Development (Muscat, Oman)	UNWTO、UNESCO、Sultanate of Oman
2/2~2/3	UNWTO International Conference on Tourism and Snow Culture（山形）	UNWTO、観光庁、山形県
2/5~2/8	CAUTHE Annual Conference 2018 (Newcastle, Australia)	CAUTHE (Council for Australian Tourism and Hospitality Education)
2/27	H29年度第2回人流物流金流ネットワークとその周辺研究会（東京）	統計数理研究所共同利用研究集会、科学技術振興機構さきがけ
3/3~3/6	Critical Tourism Studies Asia Pacific Inaugural Biennial Conference (Yogyakarta, Indonesia)	Critical Tourism Studies Asia Pacific
3/11~3/13	京都観光データウォーク（京都）	京都大学デザイン学大学院連携プログラム、京都大学大学院
3/20	UNWTO TedQual Networking Meeting (Andorra la Vella, Andorra)	UNWTO、UNWTO Themis Foundation

2.3.5. セミナー等の企画・運営

- 観光教育研究セミナー（全2回）
- 公開セミナー、ワークショップ（全9回）
- 学内セミナー、ワークショップ（全6回）

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
5/8（月）	WORKSHOP「Incorporating MOOCs in university curriculum」	
	Hanqin Qiu（Professor, School of Hotel & Tourism Management, The Hong Kong Polytechnic University）	
6/1（木）	Sustainable Agritourism Workshop「Tourism & Sufficiency Economy」	
	Choosit Choochat（Assistant Professor, Department of Tourism and Hotel, Faculty of Humanities and Social Sciences, Chiang Mai Rajabhat University）	
6/19（月）	CTR Sustainability Unit Seminar「Not defined by the numbers: Distinction, dissent and democratic possibilities in debating the data following Tokyo Electric Power Company's nuclear disaster」	
	Karly Burch (PhD candidate, Center for Sustainability, University of Otago)	
7/3（月）	CTR Culture & Heritage Unit Seminar「Tourism and Visual Representation（観光と視覚表象）」	
	Mike Crang (Professor, Department of Geography, Durham University)	

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
8/10(木)	観光教育研究セミナー2017 Vol.1 in 東京「スポーツ ツーリズム ～メガイベントが日本社会を変える～」	
	野川 春夫 (順天堂大学スポーツ健康科学部 特任教授) 坂井 文（東京都市大学都市生活学部 教授） 太田 正隆（JTB 総合研究所MICE 戦略室 主席研究員） 伊藤 央二（和歌山大学 観光学部 講師）	
9/19(火)	セミナー「Statistically measuring Sustainability: Development of Global Sustainable Tourism Dashboard」	
	Graham Miller (和歌山大学特別主幹教授、Executive Dean, Professor, Faculty of Arts and Social Sciences / Chair in Sustainability in Business, University of Surrey)	
9/20(水)	セミナー「How to get published: Current trends in Journal of Sustainable Tourism (JoST)」	
	Graham Miller (和歌山大学特別主幹教授、Executive Dean, Professor, Faculty of Arts and Social Sciences / Chair in Sustainability in Business, University of Surrey)	
10/20(金)	Sustainable Agritourism Workshop「Green Tourism in the Tea Cultivated Communities」	
	Piyaporn Chueamchaitrakun (Head, Tea Institute, Mae Fah Luang University) Amnaj Khaokhrueamuang (和歌山大学国際観光学研究センター講師)	
11/7(火)	セミナー「Tourism & Society」	
	Richard Sharpley (和歌山大学特別主幹教授、Professor, Lancashire School of Business and Enterprise, University of Central Lancashire)	

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
11/9(木)	FDセミナー「How to supervise master and PhD students」	
	Richard Sharpley (和歌山大学特別主幹教授、Professor, Lancashire School of Business and Enterprise, University of Central Lancashire)	
11/21(火)	公開セミナー「UNESCO世界自然遺産における自然保護とサステイナブル・ツーリズム」	
	竹中 健 (シマフクロウ環境研究会 代表、環境省シマフクロウ保護増殖検討会 委員) 守 容平 (環境省 羅臼自然保護官事務所 自然保護官) 若松 伸彦 (横浜国立大学 環境情報研究院 産学官連携研究員、南アルプス市ユネスコエコパーク専門員、上高地自然史研究会 研究代表) Abhik Chakraborty (和歌山大学 国際観光学研究センター 講師) 大浦 由美 (和歌山大学 観光学部 教授) 出口 竜也 (和歌山大学 観光学部 教授) 吉田 道代 (和歌山大学 観光学部 教授) Adam Doering (和歌山大学 国際観光学研究センター 准教授)	
12/2(土)	観光教育研究セミナーin 東京 2017 Vol.2「これからの観光とDMO」	
	米村 猛 (国土交通省 観光庁 観光地域振興部長) 多田 稔子 (一般社団法人 田辺市熊野ツーリズムビューロー 会長、和歌山大学 観光教育研究アドバイザリーボード メンバー) 永井 隼人 (和歌山大学 観光学部 講師) Adam Doering (和歌山大学 国際観光学研究センター 准教授) 竹林 明 (和歌山大学 観光学部 教授)	

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
1/10(水)	Sustainable Tourism Forum 「Walking Camino de Santiago – Spiritual heritage of pilgrimage」	
	Xosé Santos（Professor, Department of Geography, University of Santiago de Compostela) Anna Carr (Senior Lecturer, Department of Tourism / Co-Director, Centre for Recreation Research, Otago University) Adam Doering（和歌山大学 国際観光学研究センター 准教授）	
	「Cultural Landscape & Sustainability－Recognizing cultural values in alpine areas」	
	Anna Carr (Senior Lecturer, Department of Tourism /Co-Director, Centre for Recreation Research, Otago University) Christie Lam (大阪大学 人間科学研究科 特任講師) Abhik Chakraborty (和歌山大学 国際観光学研究センター 講師)	
1/29(月)	CTR Space&Mobility ユニットシンポジウムin大阪 「観光からみた宇宙２」	
	大貫 美鈴 (スペースアクセス株式会社 代表取締役 宇宙ビジネスコンサルタント) 秋山 演亮 (和歌山大学 クロスカル教育機構 教授) 山敷 庸亮 (京都大学大学院 総合生存学館教授) 荒井 誠 (電通宇宙ラボ、宙ツーリズム推進協議会) 尾久土 正己 (和歌山大学 観光学部 教授) 八役 奈央 (和歌山大学 観光学部 ４回生) 中串 孝志 (和歌山大学 観光学部 准教授)	

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
1/31（水）	公開セミナー「Tourism futures : the socio-cultural benefits of tourism development」	 主催　和歌山大学 国際観光学研究センター 後援　和歌山県 Tourism futures : the socio-cultural benefits of tourism development 観光学研究において、世界のリーダーの一人であるリチャード・シャープリー教授を迎え、観光政策担当者、実務者、研究者の方々とともに、和歌山県の「観光のあり方」について考えていきます。和歌山県の観光に携わる多くの皆様のご参加をお待ちしております。 （参加無料、事前申し込み要） 本講演では、日本、特に和歌山における観光による経済的利点以外の潜在的な影響に焦点を当て、観光政策として社会文化的効果や心身の健康の向上などのように進めることができるかを探ります。良心的のコミュニティ開発、環境保全、遺産の保護、ニッチツーリズム商品の開発（サイクリングツーリズムやスピリチュアルツーリズム）、災害復興、地震地消といったトピックに触れ、観光における質的成長とバランスのとれた量的成長について考えていきます。 ※セミナーは英語で行われますが、日本語訳付き資料の配布及び逐次通訳が入ります。 ★事前の申し込みが必要です。 Eメールでのみ受付けます。本文に「お名前（フリガナ）」「ご連絡先電話番号」を記入の上、右記アドレスまで申し込みください。 ・参加申込期日：2018年1月29日(月)17時 2018年 1月 31日(水) 18:00～19:30 会場　和歌山大学 西４号館 T101教室 （観光学部棟） ［和歌山市栄谷930］ 講師 リチャード・シャープリー 和歌山大学特別主幹教授、 英国降観光学研究センター副センター長、 英国セントラル・ランカシャー大学教授 ノースアングリア大学（観光学部）、リンカーン大学部（観光学部）、ツーリズム・トレーニングシマネジメント（愛媛県）を経て現職。観光研究の中心的事項はTourism Planning & Development、Annals of Tourism Research他の複数書籍を預かる。主な研究領域は「観光と地域文化の開発」、「世界遺産保護」、「ダークツーリズム」、「自然・動植物」など。現在、和歌山大学では、「観光と開発」及び「Dark Tourism 演習」を指導している。 お問い合わせ先 和歌山大学　国際観光学研究センター 〒640-8510 和歌山市栄谷930 西1号館(経済学部南棟) 1階 TEL：073-457-7025　FAX：073-457-7886 Email：info-ctr@center.wakayama-u.ac.jp HP：http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/
2/14（水）	平成29年度文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」 ダイバーシティーセミナー 「Empowering Female Academics: Research, Education & Career Development 観光学分野における女性研究者のエンパワメント：研究, 教育, キャリア開発」	
	Lisa Ruhanen (Associate Professor, Business School, University of Queensland) Edith M. Szivas (International Liaising Officer, UNWTO Themis Foundation / Professor, Modul University) 岡田 美奈子 (和歌山大学大学院 観光学研究科 博士後期課程) 加藤 久美 (和歌山大学 観光学部 教授) 吉田 道代 (和歌山大学 観光学部 教授) 佐野 楓 (和歌山大学 観光学部 准教授)	 平成29年度文部科学省補助事業 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」 Diversity Seminar: Empowering Female Academics: Research, Education & Career Development 観光学分野における女性研究者のエンパワメント：研究, 教育, キャリア開発 2018年 2月 14日(水)　13:00～16:45 会場：和歌山大学 西4号館(観光学部)T101教室 本セミナーでは幅広い学問性を持概とする観光学分野で国際的に活躍する2名の講師をお招きし、女性研究者のキャリア形成や研究プロジェクト等でのリーダーシップに関する国際的な動向について話題提供をしていただきます。そして、日本の観光分野における女性の置かれた状況を踏まえつつ、ダイバーシティ確保の観点から、女性の参画と観光および観光学の未来を展望します。 ◆プログラム◆ 第1部　13:00～15:15 Career Progression for Female Academics – A Perspective on Australia's Universities 講師　Dr Lisa Ruhanen クイーンズランド州サンシャインコースト大学 観光学部 准教授 Perspectives on Female Careers in Tourism Academia and Consulting 講師　Dr Edith M Szivas UNWTO Themis Foundation 国際連携担当 ―休憩― 第2部　15:30～16:45 日本における女性の活躍推進と観光・旅行分野の状況 – 地域や企業の持続可能な成長における観光と女性の役割とは？ 講師　岡田 美奈子 和歌山大学大学院観光学研究科 博士後期課程 パネルディスカッション モデレーター　加藤 久美 和歌山大学観光学部 教授 コメンテーター　吉田 道代 和歌山大学観光学部 教授 佐野 楓 和歌山大学観光学部 准教授 参加無料・事前申込不要 どなたでも ご参加いただけます セミナーは英語で行われますが、日本語訳付き資料の配付及び通訳が入ります。 何らかの支援または情報保障が必要な方は、2月2日(金)まで にご連絡下さい。 お問い合わせ　和歌山大学 観光学部 Tel. 073-457-8547 主催　和歌山大学観光学部 国際観光学研究センター 連携機関　大阪市立大学　大阪府立大学　和歌山大学　Dublin Business School
2/15（木）	FDセミナー「tedQual研修会」	
	Lisa Ruhanen (Associate Professor, Business School, University of Queensland) Edith M. Szivas (International Liaising Officer, UNWTO Themis Foundation / Professor, Modul University)	

CENTER FOR TOURISM RESEARCH

【発行】和歌山大学国際観光学研究センター
〒640-8510 和歌山市栄谷930
電話 073-457-7025
URL https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/

【発行日】2018年8月

Center for Tourism Research

2017年度 年次報告書

和歌山大学 国際観光学研究センター